

平成28年度 北九州市立藍島小学校自己評価

評価項目	取組の状況	成果及び改善方策
〔重点目標1〕 確かな学力の定着と体力の向上		
○家庭学習の充実 ・家庭学習ハンドブックを活用して、低・中・高学年で時間や内容を決め取り組む。 ・自主学習ノートを用意し、家庭と学校が連携し自主的に進めていけるようにする。	○中・高学年を中心に、自主学習ノートに漢字や計算等の基礎的な学習内容の復習に取り組んだ。 ○自主学習ノートのよい例を教室に提示し、どのような学習をしていけばよいかの参考となるようにした。	○自主学習ノートを活用することで、家庭学習の取組が少しずつ定着してきている。 ○計算や漢字等の基礎的な内容が中心であったので、子ども達が興味をもって調べられるテーマ等を提示して課題解決的な学習にも取り組ませていきたい。
○日常の学習の充実 ・算数と国語の単式授業の単元を増やす。 ・スクールプランにそった日々の教材研究と個に応じた指導を図る。	○授業の振り返りや分かったことを自分の言葉でまとめるようにした。 ○少人数の学級ではあるが、単式授業や複数の教師が指導できるように計画した。	○授業の振り返りを、ノートに書いたり発表したりすることで、子ども達が分かったことやできるようになったことを意識するようになった。振り返りの内容を次の学習につなげ、より分かる授業の展開に努める。 ○担任外教員が計画的に授業に入り、複式授業の解消を目指したが、十分ではなかった。さらに、教職員間の連絡調整を行い、単式授業やきめ細かな指導ができるようにしていく。
○朝の「藍島スペシャルタイム」の充実 ・曜日ごとに取り組む内容を固定化し、意図的・系統的に指導していく。	○計画的に指導を行うことで、基礎的・基本的な学習内容を定着させる。計算や言葉の内容については、100マス計算や漢字の書き取り、ことわざなど、年間を通して計画的に実施した。	○計算の学習を継続して行うことで、計算力の定着につながった。 ○音読については、「ひまわり」の活用を、発表会や暗唱大会につなげていく。 ○読書については、今年度始め「藍島読書貯金」を継続し、児童の読書に対する意欲を引き続き高めていく。
○スクールプランにそった体力向上 ・投擲力や跳躍力に関する運動を多く取り入れていく。	○職員の共通理解のもと、準備運動にラダートレーニングを計画的に設定した。 ○中休みに、遊具を使って投擲の要素を取り入れたゲームを行った。	○運動場が使用できない中、体育館や学校周辺を活用して子ども達の運動量が減らないようにできた。 ○児童数が少ないため、体育科授業で実施しにくい集団的な運動に関して、場や内容、ルールを工夫して行うことができた。
〔重点目標2〕 命を大切に教育の充実		
○生徒指導の充実と事故防止の徹底 ・子どもの様子を把握し、いじめ問題に対するアンテナを高くする。 ・安全点検の徹底と事故への適切な対応をする。	○毎月の教育相談と月、水曜日の「先生とのお話タイム」により、子どもの心の状況を把握し、教職員で共有した。 ○朝、校門で職員と子ども達があいさつをするようにした。 ○毎月の安全点検を複数の目で確実に実施した。	○お話タイムや朝の挨拶などで、子どもの表情や話し方から心の状況を知ることができた。全教職員が共通理解のもと、指導する体制を確立した。子ども同士の良好な人間関係を成立させるため、教職員のそれぞれの立場で指導を引き続き行う必要がある。 ○計画的、組織的に安全点検を行うことができた。学校が離島であるためすぐに対応できないこともあるので、施設に関する問題は小さなうちに発見する必要がある。
○道徳教育の充実 ・時間の確保をする。 ・子どもの心の温度を上げる。	○確実な教育課程を進行し授業時数の確保をした。 ○授業について、担任が資料を工夫したり視聴覚機器を活用する等、授業展開を工夫した。	○本年度、道徳の授業時数をしっかりと確保して実践することができた。 ○子ども達の道徳的実践力につながるよう、教材研究をしっかり行い授業の質をあげていく必要がある。
○特別支援教育の推進 ・職員の共通理解のもと、関係機関との連携を図りながら推進していく。	○子ども達一人一人の特性を把握すると共に、個に応じた指導や支援ができるように職員が共通理解を図る場を設けたり、スクールカウンセラーと連携したりした。	○職員が児童についての共通理解をする場を設けたことで、同じ指導や声かけを行おうと心がけることができた。 ○スクールカウンセラーから、個の特性に応じた指導や支援の仕方を学ぶことができた。
〔重点目標3〕 教職員の資質向上		
○主題研究での授業の取組の充実 ・年間3回の授業研究を実施する。 ・外部講師を招聘して、研修を充実させる。	○全職員で授業の展開を話し合ったり、自作教具の問題点を出し合ったりした。授業を見る視点をきちんと持って協議会に参加した。 ○招聘した講師から適切な指導助言を受け、事後の指導に生かした。	○各担任による年間3回の主題研究授業を実施することで、発問内容の精選や教師の手立て、振り返りの有効性を検証することができた。 ○講師の指導を受ける時間を十分確保することで、各担任は、日々の授業改善をめざす意識が生まれてきた。
○各種研修会(市内・市外)への積極的な参加 ・夏季休業期間のセンター研修を活用する。 ・県外出張への派遣を計画的に行う。	○夏季休業期間に全職員が各種研修会に参加し、各自のテーマに沿って研修した。 ○県外出張は1名が出張し、本校の課題である「複式授業のあり方」について解決の糸口につなげた。	○市内・県外出張ともに、学校にとって意義あるものになった。 ○複式指導や個別での自立的な学習方法など、本校の課題となる内容について視察することができた。それをもとに、本校にあった指導方法で実践を行うことができた。